



のら書店 〒102-0074 千代田区九段南 3-9-11-202

『チベットのむかしばなし しかばねの物語』3刷!

チベットの昔話は日本でも愛されて…

2023年秋に発売された『チベットのむかしばなし しかばねの物語』。この度3刷となり、地道に版を重ねています！ 編訳者の星泉さんと画家の蔵西さんにお話を伺い、現在のチベットの様子やお二方のお仕事などを伺いました。

— 星さん、蔵西さん、お久しぶりで。この度は3刷、おめでとうございませう！ あともう一息で一万部：素晴らしいことですね。星さんは先週はラサにいらしたのですよね？

— (星泉さん以下、H) ラサではチーズの調査をしました。牛のチーズで、乾燥したもの、液状のもの、ペースト状のものなどがあって。民家を訪問してチーズを実際に食べさせてもらい、作り方などを調べました。小説の仕事では『花と夢』(春秋社)の著者のツェリン・ヤンキーさんにも会いましたよ。

— チベットの人々の生活は、ここ数年間で変化していますか？

(H) 牧畜中心で生きてきた親と、スマホを手にした子ども世代の体験の違いが生じ、先祖代々守ってきた生活



▶星泉さん(左)と蔵西さん(新宿区チベットレストラン・タンデレにて)

を捨てるのかどうするかという岐路にあるとは思いますが。今はIT化が進んでいて、例えば、全てがネット決済です。また、牧畜民の方の中には動画

配信のインフルエンサーがいて、大気！ 踊りや歌を披露して、自家製の干し肉を売っています。昨年の地震の時には、インフルエンサーの中には多額の義援金を集めた人もいます。動画配信を承認欲求のために使うのではなく、利他的に使っているのも、とてもいい効果が生まれているんですね。外と繋がることで、彼らの気持ちも上がりますし。環境的には中国語の教育が中心になってチベット語がなくなる不安があったり、暮らしにも変化が大きけれど、彼らの利他という根本的な生き方は変わっていないですね。

— 『しかばねの物語』は口承で伝わりましたが、物語を語るということは今も行われているのでしょうか？

(H) 相変わらず、語るのがうまい人はたくさんいます。自分の体験を語ってくれると止まらないんです。それと、チベット人の友人の言葉で印象に残っているのは、話すのがうまいことより重要なのは、耳を傾けること、そして、相手が話したことを覚えていること、というものです。

— とても考えさせられる言葉ですね。SNSの使い方も…。蔵西さんはRenta!で『恋する建国姫』の連載をスタートされましたね(インターネットでRenta!と検索するとサイトが出てきます)。これは古代チベットが舞台の恋愛漫画ですね。

(蔵西さん以下、K) チベットが好きで、これからもずっとチベットを舞台にした漫画を描きたいと願っています。そのためにはチベットの近代と古代を描きたいと。どちらも今のチベットにつながる大切な時代なんです。今回の漫画では、古代チベットの理想的な世界を架空の国で描こうと思いましたが、ただ、画像資料が少なくて…。敦

蔵西さんの新連載『恋する建国姫 果ての国の夢』(Renta!で配信)



煌の壁画や正倉院の宝物を参考にしました。『しかばねの物語』は挿絵なので、一枚の絵の中に情報を入れていくのですが、漫画は物語として絵を作っていくので、全体に多様な情報を盛り込めます。馴染みのない世界に、いかに読者を誘うかを考えて描いています。

— ここまでチベットに惹かれたのは、大昔時代に初めて訪れた時に見た荒野と黒いほど青い空：前世の記憶のようなものを感じた風景です。そして、このコントラストになるような寺院の中の極彩色の物語世界、人々の素敵な笑顔。自宅から見える空もチベットの空と繋がっていて、同じ空の下で生きている同じ人間で、暮らしや物語が異なります。日本とチベットは遠く離れていますが、『しかばねの物語』を読めば、きっと近く感じられると思いますよ。

— 空を眺めること、大事にしたいです。星さんも、また新しいチベット文学の翻訳に取り掛かられていますか？

(H) アンソロジーに入るツェリン・ヤンキーさんの中編『嫁』と、ツェリン・ヤンキーさんの長編『赤い砂塵』を訳しました。どちらもチベット現代文学の著名な作家による作品です。『しかばねの物語』は昔話ですが、昔話は現代チベット文学の発展に影響を与えています。口承文芸とその印刷物に親しんだ、作家のトンドゥプジャのよう

な人が文革期から改革開放の初期に北京で漢語でさまざまなタイプの作品を受容し、それが後のチベット文学の発展に繋がりました。

— 『しかばねの物語』の会話の小気味よさは、現代チベット文学の中の会話の中でも感じられます。話し、聞き、記憶して想像を膨らませていく人々の在り方が文学に表れていますね。『嫁』が含まれるアンソロジーは年内、『赤い砂塵』は来年ごろに出版予定とのこと。とてもたのしみです！ 『嫁』には、チベットのインフルエンサーも登場しますよ。笑。星さん、蔵西さん、紙面が足りないほどの深いお話をありがとうございます！ チベットのことをこれからも広く深く知っていただけるよう、『しかばねの物語』を届け続けたいと思います。



『チベットのむかしばなし しかばねの物語』 星泉・編訳 蔵西・絵 定価：本体一八〇〇円十税 しかばねと旅する主人公に課されたのは、しかばねが語るお話がどんなにおもしろくて、口をきいてはいけないということ……。チベットの人々に長く愛されてきた『しかばねの物語』を、親しみやすい日本語訳と絵で味わえる一冊です。

※注文は全国書店様までどうぞ！

のら書店の最新情報はホームページよりご覧ください。X、インスタグラム、フェイスブックでも発信中！

